

平成 18 年 1 月 26 日 プリーフィング質疑応答

以下は、平成 18 年 1 月 26 日におこなったプリーフィングにおける弊社会長 細谷 英二と記者の皆様との主な質疑応答です。

【質疑応答】

Q . 通期見通しの修正は行うのか。

A . 現段階では考えておりません。もちろん、第 3 四半期の段階でここまでの水準になりましたので、上ブレはすると思いますが現段階では通期見通しを修正することは考えておりません。

Q . ライブドアに関する事件についての感想と市場をめぐる問題についての提言があればお聞きしたい。

A . 資本主義の発展や企業の成長には、エンジンの部分とブレーキの部分の調和が非常に大事だと思っています。エンジン部分については、どうしても拝金主義的な要素は組み込まざるを得ないと思っておりますが、そういう拝金主義的な要素をいかに健全性というブレーキで制御していくかということが、資本主義社会あるいは企業社会で求められていると思えます。そういう意味で、企業社会において、当然、法規制あるいはルールの整備が不可欠でありますし、企業そのものにおいては、コーポレートガバナンスが不可欠だと思っています。今回のライブドアの事件については、報道ベースの情報しか無いわけではありますが、やはり、率直に言ってコーポレートガバナンスが機能していたかどうかという疑問は持ちます。それから、今後のあり方としては、私はやっぱり過大な規制コストとか過剰な規制を行うことは、エンジン部分に過大なブレーキがかかって、資本主義社会の発展には、必ずしもプラスにはならないということではあります。やはり、法規制面においては、市場に参加した人は法規制を破った場合は厳罰に処すべきだと思いますので、やはり、罰則の強化というのは非常に重要なテーマではないかと思えます。そしてやはり、実際のルールの運用というのは、証券取引所等で行われているわけでありまして、やはりこのルールの改めての見直しとルールの運用のレベルを引き上げていくことが必要ではないかと思えます。やはり証券取引所も株式会社でありますから、株式会社としてそこで扱う商品の品質とサービスのレベルをいかに効率的にマネジメントしていくかということは、他の上場会社と同じことが求められるわけですから、やはり品質管理のための情報開示のルールの見直しなどはぜひしっかりやっていただきたいという思いで見えております。

Q . (ライブドアの関係もあり) 株式相場が動いている、現在の御社の株価水準はどのように思っているか。

A . 日本経済のファンダメンタルズが変わっているわけではありませんし、そういう意味では日本経済の今の実力に合わせた株式市場の動きではないかなと思っております。短期

的にはまだ調整局面があるかもしれませんが、今年というスパンで考えれば、株式市場も堅調に推移するのではないかという予想をしております。

Q . ライブドア事件がおきてから、拝金主義的なものが問題視されるようになりましたが、今回の事件が起きる前から、ライブドアについてはどのような考えをお持ちか。

A . 私としては、ライブドアについてはプロ野球参加の話題を見ていたくらいで、ライブドアという会社の事業モデルについては余り興味は持っておりませんでした。ただ、やはり、今回の一連の事件を通じて、改めて市場参加する人の高い倫理観とか CSR ということの重要性をしっかりと受け止めなければならないと思っております。

Q . 貸し出しの未残が回復してきたということだが、地域別の特徴はあるのか。

A . 埼玉りそな銀行は引き続き順調ですし、近畿大阪銀行もよくなってきている。一番遅れていたりそな銀行についてもりそなホールディングスから近畿大阪銀行への出資金について借り入れをしており、その返済を順調に進めているわけですが、その要素を除けば、りそな銀行も一般企業向けの貸し出しも底を打ちました。今まではローンでカバーをしようとしてもカバーしきれない状態だったわけですが、一般企業向けの貸し出しも増えてきており、実質的に底打ち感が出てきたということでもあります。そういう意味で東京大阪などの地域で、特に差が出ているという感じはしておりません。ただ本当に勢いがあるかということについては、厳しい利ざや競争の中での戦いでありますので、収益面で、底上げにはなかなかまだなっていないということで、かねてから申し上げている通り、非価格競争力をつけていかに利ざや競争に防戦をしていくかということが、これからどの銀行でも共通の課題として求められていると思っております。

Q . 投資性商品の販売の勢いはどうか。

A . 昨年来の勢いが続いておりまして、12月も伸びておりまして、インド株投信や「ブンさん」といった商品が売れました。それから、5年物の個人向け国債の販売も堅調だったということで、やはり投資性商品への関心その他高まっておりますし、その中でもやはり、安定性の高い元本保証型的な商品を買われるお客さまと、最近では、リスクの高い商品に興味をもたれるお客さまも増えているということで、先ほど申し上げました、LoveMe! の第2弾は、安定性を重視した第1弾に比べ、女性もリスク商品に対する関心を高めてもらえてますので、もう少しリスクが高くて、配当が期待できる商品組成について一生懸命議論しております。

Q . 住宅ローン市場の今後について。

A . 耐震強度偽造問題がありましたが、住宅ローン自体は堅調です。ただ、耐震偽造問題の影響もあり、3月末あたりの引渡しができないものがあるのではないかととも言われておりますので、そのあたりは、マーケットの動きを見て対応しなければいけないと思っております。

Q . 貸し出しの底打ちを見て、デフレ脱却の感触はお持ちか。

A . 埼玉りそな銀行のお取引先であり衣料品小売をしているしまむらからも、客単価が上がってきたというなお話も聞いておりますので、デフレ脱却の動きは着実に推移しているのではないかなと、お客さまからの声からは感じております。

Q . 盗難キャッシュカードの過去補償を2年とした根拠は。

A . 預金者保護法の考えを尊重し、過去の被害に対する最大限の配慮をという主旨に基づき、われわれとして具体的な期間として総合的に検討した結果、2年が妥当ではないかという結論に達したわけです。

Q . 過去2年間とした場合、どの程度が対象となるのか。

A . りそな銀行で200件程度、グループ全体で300件程度です。5万円とか10万円といった小額のお客さまも多数おられます。

Q . 盗撮の監視システムですが将来的には全部のクイックロビーに展開するのか。

A . 成果を上げるということが確認できれば、順次拡大するということで検討していきたいと思えます。

Q . 海外IRはどこへ行くのか。

A . 例年のコースで、ロンドン・ボストン・ニューヨークに行きます。

以上